

「何も思い煩わないで」ピリピ4：6，7

堀田修一 20・5・17

I 「何も思い煩わないで」

1. 思い煩うの原語：分け、分離させ、私達の心をそらさせるものを指す為に使われる言葉。「心があれやこれやに分かれる事」。心が分散する。「心が分かれるのです」(I コリ7：34)。思い煩いとは、すべてを支配しておられる神に心が集中せず、あれやこれやと心が分かれ、分散し、分裂する事。

2. 私達の弱さ：神を信頼する心が裂かれ、分かれてしまう。

①過去への空しい後悔の心。

②主から目を離して、現在の問題にだけに心を奪われ、ふさぐ心。※現実逃避ではなく、現実を見ても主に信頼して祈る。

③将来の事を想像し、どんどん恐れ、心配を自分で大きくしてしまう。選択が人生の鍵。

II 思い煩わない秘訣。聖書に見事な答えがある。それは、「思い煩わないぞー！」と自分の力で頑張っても無理。ほとんどの場合「駄目、駄目」と言う消極的な方法では解決しない。悪いものを出すためには、心の中にもっと良いものを積極的に入れる必要がある。※証し。思い煩いの思いを出す最善の積極的な方法は、心の中に神を、神の豊かな恵みを入れる事。「心(原語：思い)を新たにすることで、自分を変えていただきなさい」(ローマ12：2)。聖書のアプローチ(方法、手掛かり)→「心配するのはやめなさい(消極的命)…神の国とその義(神の正しさ、御心、聖さ、神との正しい関係)とをまず第一に求めなさい(積極的命)。それに加えて、これらのものはすべて(真に必要なもの)与えられます」(マタ6：31、33)。本日の4：6でも、まず問題の解決をこうしなさいと言われずに、まず、神との関係をしっかりと持つ事が語られる→何も思い煩わないで→「あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい」：6＝神との関係をしっかりと持ちなさい。「あらゆる場合に」：すべての事の中で、何事につけ、どんな事情の中でも。「感謝をもって」：これが非常に重要！私達は思い煩いに心が支配されてしまうと(⇔神の国とは神の支配。神の国を求めるとは、思い煩いが心を支配する事がないように、自分の心の王座に神を迎え、心を神に支配していただく事)、今、現在も与えられている十分な主の恵み(「わたしの恵みはあなたに十分である」IIコリ12：9)が見えなくなり、感謝を忘れてしまう。思い煩う困難な中でこそ、御聖霊が与えられる意志で、意識的に主の恵みを数えて感謝する。主の恵み＝与えられている食べ物、着物、住まい、命、手、口、耳、鼻、腰、関節、主の救い、過去、現在、未来のすべての罪の赦し、義認、神との和解、永遠の命、神の子供とされている恵み、神の大きな愛、主の十字架と復活の恵み、御聖霊の内住、交わり、主を信じる信仰、素晴らしい神の家族である教会、土地、建物、会堂返済の奇蹟的守り、祈りの支え、人生での良き出会い、ただただ神の恵みで今日まで生かされ神に愛されている事。数えきれない恵み！※4：6の御言葉に従い、ディボーションの時、ノートに感謝を記し感謝をささげる。その後、課題も正直に祈る。そこに大きな祝福がある。「主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな」(詩103：2)。まず神に感謝する時、私達の心は神に向く。しかし感謝を忘れた課題、要求だけの祈りは、私達の

心を神に向けることなく、祈りの中でも、神ではなく、その問題に心が捕われている事がある。だから聖書の順番が非常に大切→「感謝をもって」。「ささげる祈り」：自分の願いを神に告げる前に、まず礼拝と神を崇める祈りをする。神の前に静まり、まず自分が今、偉大な神と向かい合っている事を知る。自分が神の臨在される場にいる事を認め、崇敬の心を注ぎ出す。「主の祈り」も同じ。「天にいます私たちの父よ。御名が聖なるものとされますように」（マタイ6：9、10）。次に「私たちの日ごとの糧を、今日もお与えください」（：11）。「願いによって」。賛美、感謝の次に、願いも正直に祈る事が大切。但し、最初に、願い、要求ではなく、神の恵みを数え感謝し（これは、より良い人間関係にも当てはまる）、神を崇め、今、自分はどんなに素晴らしい偉大な神の前にいるかを自覚し、祈る対象の神を知って初めて願う事ができる。今、心に重荷となっている事柄、問題を具体的に祈る事ができる。心（感情、辛さ、うめき）を注ぎ出すことができる。そのようにして、神のもとに重荷を降ろす。「神に知っていただきなさい」：6→神は全知全能の方なので、私達が祈る前に、すでに私達のすべてを知っておられる。しかし、神は私達の御父として神の子どもである私達を愛しておられるので、私達との交わりを喜び、私達が正直に心を打ち明けて祈り、願いを知らせるのを喜ばれる。神に打ち明ける事は素晴らしい恵み。神とますます親しくなる。神とも人とも親しくなるには時が必要。親しくなる条件は、時間と同時に誠実さ。神は私達を心から愛して最善の事をして下さる。

Ⅲ「そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます」：7。神の平安は、人のすべての考えに優るもの。神の平安は、不思議。神が共におられる平安。神に愛され赦して下さる平安。神がすべてを支配しておられると信頼し、安んじる平安。私達の身に起こる出来事で、何一つ偶然、無意味な事はない。神の深い計画と許しの御手の中で起こる事。「雀の一羽でさえ、あなたがたの父の許しなしには地に落ちません」マタイ10：29。「あなたがたの心（感情、意志等の源泉）と思い（考え、思い）をキリスト・イエスにあって守ってくれます（原語：見張る、警備する、守る、保護する）」：7。神の平安は、私達の乱れ易い不安定な心、感情、思い（私達の思いは、想像力で、ますます思い煩いを増長させてしまう）を守って下さる。御言葉の深い点は、神が私達の辛い状況をすぐになくすとは言われてなくて、辛い状況の中でも、その辛い状況に対処する私達の心と思いを守って下さる。ここでも「キリスト・イエスにあって」とある。やはり、私達と主との命の通うつながり、深い関係が大切。常に、最も大切な事は、神、主との関係、深いつながり。この地上では、皆、困難、問題、悩みはある。その中で、平和の主としっかりつながり、主にとどまり、主に拠り頼む時、神の平安に満たされ、神の平安は、私達の心と思いとを守って下さる。「思い煩いをいっさい神に委ねなさい。神があなたがたのことを心配して下さるからです」Ⅰペテロ5：7。「彼ら（私達）が苦しむときには、いつも主も苦しみ、主の臨在の御使いが彼ら（私達）を救った。その愛とあわれみによって、主は彼ら（私達）を贖い、昔からずっと彼らを背負い、担ってくださった」イザヤ63：9、10。「胎内にいたときから担がれ、生まれる前から運ばれた者よ。あなたがたが年をとっても、わたしは同じようにする。あなたがたが白髪になっても、わたしは背負う。わたしはそうしてきたのだ。わたしは運ぶ。背負って救い出す」イザヤ46：3、4